

出題 蜚雪ゼミナール

長良北校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

## 問題【国語】

次の俳句の（ ）に入る漢字は「霰」と「雹」のどちらでしようか。

冬の情 月あきららかに（ ）ふる

## 豆知識 雑学コラム

### 「霰」と「雹」の違い

今日は「霰」と「雹」について、こからが塊なのか疑問に思つかもです。「霰」は「あられ」とよんで、「雹」は「あられ」とよんで、「空から降ってくる氷の粒」を指します。そして、「雹」は「ひょう」とよんで、「空から降ってくる氷の塊」を指しています。「氷の粒」、「氷の塊」と書くところ、ど

こからが塊なのか疑問に思つかもしれません。

気象庁では「氷の大きさが直径5ミリの未満のときが霰で、直径5ミリ以上だと雹」と決めて、気象情報を出しています。では、気象庁ができる前、メートルなどの長さの単位が浸透してないぐらい昔

では、どうやって「霰」、「雹」を区別していたのでしょうか。考えてみましょう。

まず、「霰」や「雹」という言葉をどんなときに見聞きしたか思い出してみましよう。「霰」は「雪やこんこ、あられやこんこ」と冬を表す場面でよく見聞きしますよね。「雹」の方は5月以降の初夏に「雹が降った」というニュースを見聞きするかと思えます。

つまり「霰」は「冬」と「雹」は「夏」と、降る季節に違いがあり、昔の日本人は大きさだけでなく降る季節の違いで呼び方を変えていたというわけです。

また、降る季節に違いがあるとすることは、「霰」は「冬を表す

季節の言葉」、「雹」は「夏を表す季節の言葉」となっていて、俳句を書くときに季語として用いることができます。

今回の問題の俳句は「冬の情」で冬の情景について詠んでいることがわかるため、冬の季語である「霰」が入るといわけです。

ちなみに英語では「霰」も「雹」も区別せず、「hailstone（ハイルストーン）」といっています。落ちてくる氷を大きさや降ってくる季節で、「霰」、「雹」と分けるところに、日本人の自然観を感じますよね。

## 【解答】